

## II 評価書作成の趣旨

「静岡県教育振興基本計画(2018年度～2021年度)」(以下「基本計画」という。)については、計画に掲げた目標指標と主な取組を含め、その進捗状況を確認するため、評価書を毎年度作成し、施策の継続的な改善を図るものである。

なお、本評価書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により義務付けられている「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等」の報告書を兼ねる。

## III 2020年度の評価の概要

2018年度からスタートした本計画は、本県教育の基本理念である「有徳の人」の育成に向け、特に重要な10項目(中柱)について、県と県教育委員会が一体となって重点的に取り組んできた。3年目を迎えた今年度も、社会情勢の変化や教育ニーズへ対応し、これまでの取組の見直しや拡充、事業終了による計画の変更など、子供たちや地域の実態に即して適切な改善を図りながら、PDCAサイクルによる継続的な施策の進行管理を行った。

各取組の進捗については、外出自粛や県内の学校における3月から5月までの臨時休業など、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの取組が中止や延期、規模縮小が必要となったことで、全体の4割を超える取組の進捗に影響が出た。

そのため、今年度は、通常の進捗評価に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「目標指標」については、影響を補完・軽減する取組や工夫、当初の計画を代替する取組を含めて「指標の評価」を明確にするとともに、影響を踏まえた「今後の方針」を具体的に示すことで、ウィズコロナ・アフターコロナ時代においても持続可能な「有徳の人」の育成の実現に取り組むこととした。

また、それぞれの「目標指標」に関連する「主な取組」についても、新型コロナウイルス感染症の影響の有無も含め、全ての取組の具体的な進捗状況の根拠を示し、今後に向けた取組内容の妥当性及び方向性を確認した。

### 1 目標指標の進捗状況

章立て	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
第1章 「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現	0	2	3	2	6	4	17
第2章 未来を切り拓く多様な人材を育む教育の実現	1	0	4	0	2	1	8
第3章 社会総がかりで取り組む教育の実現	4	1	3	2	3	0	13
計	5	3	10	4	11	5	38
	15.2%	9.1%	30.3%	12.1%	33.3%	—	

＜目標指標（維持目標を除く）の進捗状況区分＞

区分	基準
目標値以上	「実績値」が「目標値」以上のもの
A	「実績値」が「期待値」の推移の+30%超え～「目標値」未満のもの
B	「実績値」が「期待値」の推移の±30%の範囲内のもの
C	「実績値」が「期待値」の推移の-30%未満～「基準値」超えのもの
基準値以下	「実績値」が「基準値」以下のもの
—	統計値等発表前、当該年度に調査なし等

※「静岡県の新ビジョン」における成果指標の達成状況区分に倣っている。

＜維持目標の進捗状況区分＞

区分	判断基準
目標値以上	「実績値」が「目標値」以上のもの
B	「実績値」が「目標値」の85%以上100%未満のもの
C	「実績値」が「目標値」の85%未満のもの
基準値以下	「実績値」が「基準値」以下のもの
—	統計値等発表前、当該年度に調査なし等

＜複数の数値目標を掲げている指標＞

区分	評点	平均により 目標全体の 評価を決定 →	区分	平均点
目標値以上	5		目標値以上	5.0点
A	4		A	4.0点以上5.0点未満
B	3		B	3.0点以上4.0点未満
C	2		C	1.0点超え3.0点未満
基準値以下	1		基準値以下	1.0点

※それぞれの数値目標に対応する「現状値」の進捗状況の区分を点数化し、その平均点により目標指標全体の進捗を判断する。

＜新型コロナウイルス感染症の影響を受けた指標＞

章	指標名	進捗状況
第1章	全国規模の学力調査で全国平均を上回る科目の割合	—
	学校の授業以外で1日当たり1時間以上勉強している児童生徒の割合	—
	児童生徒に望ましい勤労観・職業観を育む教育を実施した学校の割合	B
	国民体育大会における総合順位	—
	県内文化施設(概ね300人以上の公立ホール)利用者数	基準値以下
第2章	ふじのくにグローバル人材育成基金による海外派遣者数	B
	高校生アカデミックチャレンジ参加高校生数	—
	県内高等教育機関の公開講座・シンポジウム開催回数	基準値以下
第3章	県総合教育会議・地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会開催回数	目標値以上
	公民館・生涯学習施設等の講座・学級開催回数	B
	消費者教育出前講座実施回数	目標値以上

※P22 以降の施策群別評価で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取組には「★」を記載

## 2 主な取組の進捗状況

章立て	◎	○	●	計
第1章 「文・武・芸」三道の鼎立を目指す教育の実現	15(1)	276(24)	15	306(25)
第2章 未来を切り拓く多様な人材を育む教育の実現	2(1)	57(11)	15(3)	74(15)
第3章 社会総がかりで取り組む教育の実現	5(1)	189(42)	24(2)	218(45)
計	22(3)	522(77)	54(5)	598(85)
	3.7%	87.3%	9.0%	

※( )は再掲の取組で内数

### <主な取組の進捗状況区分>

区分	評価の観点	
	時間的	数量的
◎	前倒しで実施	増加・拡大傾向
○	計画どおり実施	横ばい傾向
●	計画より遅れている	減少・縮小傾向

### <新型コロナウイルス感染症の影響を受けた主な取組数と割合> (該当数/全体数)

章	◎★	○★	●★	計
第1章	2/15	110/276	15/15	127/306
	13.3%	39.9%	100%	41.5%
第2章	0/2	20/57	15/15	35/74
	0%	35.1%	100%	47.3%
第3章	1/5	70/189	23/24	94/218
	20%	37.0%	95.8%	43.1%
計	3/22	200/522	53/54	256/598
	13.6%	38.3%	98.2%	42.8%

※P22以降の施策群別評価で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取組には「★」を記載

### 3 「目標指標」及び「主な取組」の評価結果

- ・「目標指標」では、実績が判明している 33 指標（全体 38 指標）のうち、「目標値以上」が 5 指標、「A」が 3 指標、「B」が 10 指標となり、54.6%が目標達成に向けて順調に推移している。一方、「C」が 4 指標、「基準値以下」が 11 指標となり、45.4%が目標達成に向けて進捗が遅れがみられる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた「目標指標」は 11 指標（P7 参照）あり、そのうち、事業の中止により実績値のないものが 4 指標、新型コロナウイルス感染症の影響を補完・軽減する取組や工夫、当初の計画を代替する取組を行うことで「目標値以上」となったものが 2 指標、「B」が 3 指標であった。一方、「基準値以下」は 2 指標となったが、これらについては、文化ホールの利用者数や、公開講座・シンポジウムの開催回数といった外出自粛等の外的要因に大きく左右される指標であった。
- ・第 1 章には、「C」及び「基準値以下」の半数以上（8 指標）が集中しており、中でも「授業に ICT を活用できる教員の割合」、「小中学校でのネット安心・安全講座の実施件数」、「研修の成果を授業改善や学校運営等で役立てた教員の割合」といった、アフターコロナ時代にも対応が求められる指標に進捗が遅れがみられ、早急な取組が必要である。また、スポーツや文化に関する取組については、ニーズの把握や環境整備、広報等の一層の取組が必要である。
- ・第 2 章では、県立大学の「県内就職率の割合」、「県内高等教育機関の公開講座・シンポジウム」の 2 指標が「基準値以下」となっており、県内企業の魅力発信や経済団体等と連携した取組の一層の推進が必要である。
- ・第 3 章では、「家庭教育に関する交流会実施園・学校数」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合」、「地域で行われる防災訓練の児童生徒参加率」が「基準値以下」、「生活困窮世帯の子どもの学習支援実施市町数」、「不登校等の課題を抱えていた児童生徒が適切な支援により、改善傾向に向かった割合」が「C」となっている。いずれも地域との関わりの中で、子供たちを支援していく取組や地域活動に対する意識等を育む取組であるため、広報や支援体制の充実、保護者の理解促進や意識啓発が不可欠であり、地域や市町と協働した取組の推進が一層必要である。また、年々増加している不登校の課題を抱えた児童生徒に対しては、学校と専門機関との連携による多様な支援体制の整備や学校以外の居場所づくりなど、児童生徒の社会的自立に向けた支援への取組が必要である。
- ・「主な取組」では、598 項目の取組のうち、「◎」が 22 項目、「○」が 522 項目であり、全体の 91%が概ね順調に進捗している。一方、「●」は全体の 9%に当たる 54 項目となったが、これらの取組については、ほぼ全てが新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止や延期、規模縮小となっている。また、「○」の取組についても、全体の 38.3%の取組が新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、開催の時期や方法の変更、本来の事業に代替する取組等を実施した。